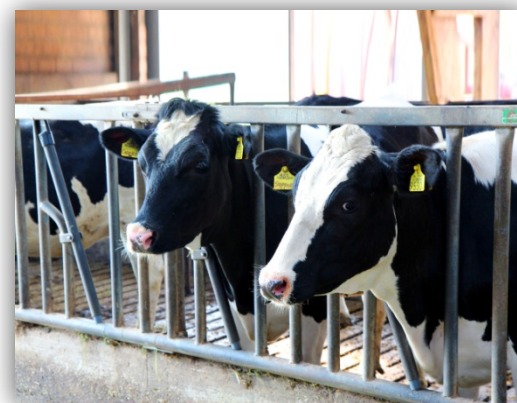


中国の酪農・乳業事情



平成27年9月29日(火)

独立行政法人農畜産業振興機構

畜産経営対策部 木下 瞬



～本日の内容～

- 1 中国の概況
- 2 生乳生産の構造
- 3 牛乳・乳製品の生産・消費動向
- 4 牛乳・乳製品の輸入動向
- 5 今後の見通し
- 6 まとめ



高級スーパーに並ぶ日系企業の牛乳とはっ酵乳
(上海市内)

1 中国の概況

経済指標等

	 中国	 日本
人口(2014年)	13億7000万人	1億2700万人
国土面積(2014年)	960万km ²	38万km ²
名目GDP(2014年)	10兆3803億米ドル	4兆6163億米ドル
農業総生産額(2013年)	8,297億米ドル	692億米ドル
農業人口(2014年)	2億2790万人	227万人
農用地面積(2012年)	126万km ²	4万5600km ²

農林水産業の位置づけ

	中国	日本
GDPに占める農業の割合	8.8%	1.4%
総人口に占める農業人口の割合	16.7%	1.8%
国土に占める農用地の割合	13%	12%

資料：IMF、FAO STAT、総務省、中国国家統計局

1 中国の概況

酪農指標等

酪農関係指標の日中比較（2013年）

	単位	 中国	 日本
酪農家戸数	戸	1,890,600	19,400
乳用牛飼養頭数	千頭	14,429	1,423
1戸当たり飼養頭数	頭	8	73
生乳生産量	千トン	36,495	7,508
1頭当たり乳量	kg	5,500	8,154

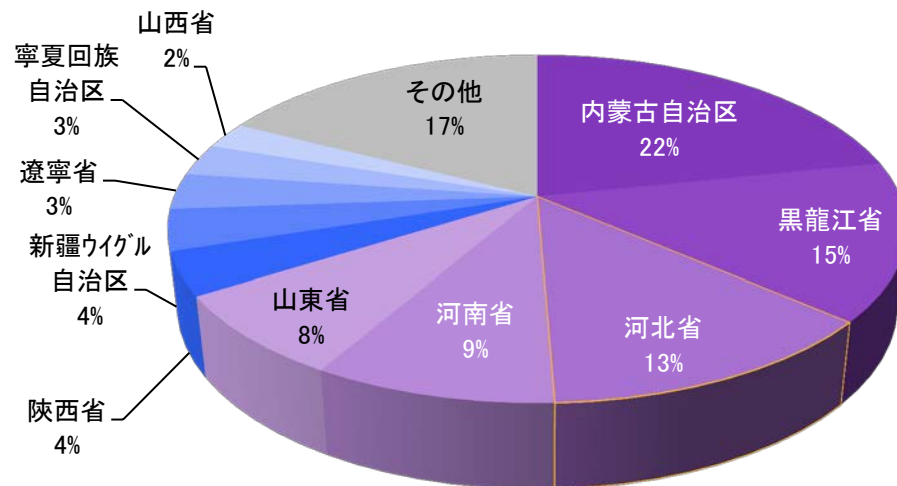
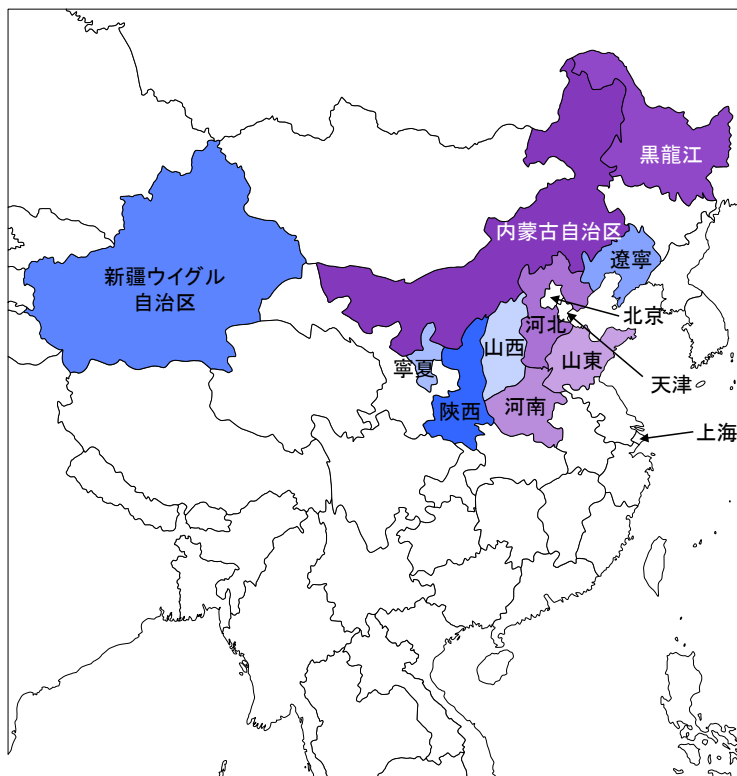
資料：農林水産省、中国国家統計局

2 生乳生産の構造

生乳の主産地

- 乳用牛飼養に適した気候で、豊富な草地を持つ北東部が主産地
- 内蒙古自治区、黒龍江省、河北省で国内生産の約2分の1を占める

生乳生産量上位10省・自治区（2013年）



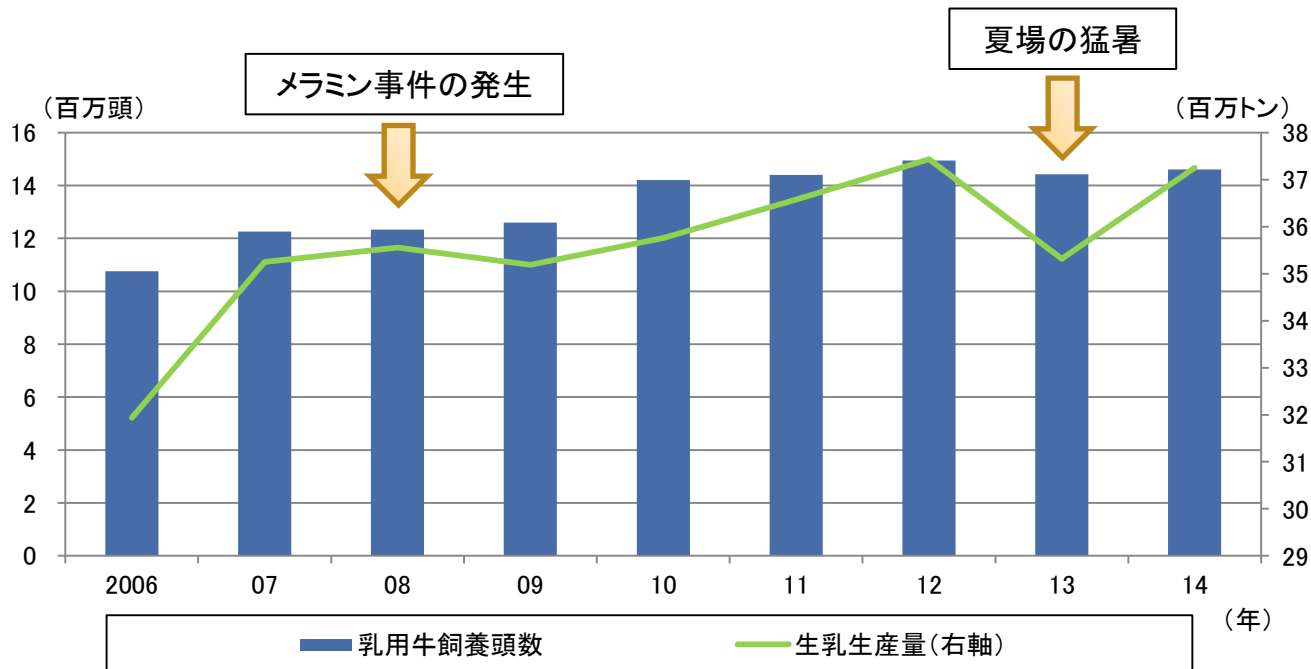
資料：中国統計年鑑よりALIC作成

2 生乳生産の構造

最近の生乳生産の動向

- 2000年代に入り、乳用牛飼養頭数の増加に伴って、生乳生産量が増加
- 2013年は夏場の猛暑が長期化したことや零細農家の離農等により大幅に減産
- 2014年の飼養頭数は1460万頭、生乳生産量は3725万トン

乳用牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局

2 生乳生産の構造

最近の動向

- 2007年頃から、生乳需給がひっ迫。国際価格の上昇に伴い、増産が加速
- 2008年のメラミン事件を契機に生乳生産は「量」から「質」へ

2007年末～

- ・ 国際価格の高騰により、輸入粉乳価格は上昇。
- ・ 乳価が上昇基調となり、生体牛価格も上昇。農家は増収。

2008年～

- ・ メラミン事件により、牛乳消費が落ち込み、生乳需要が停滞。

2009年～

- ・ 乳業メーカーによっては乳質の悪い零細農家からの集乳を停止。
⇒メーカー直営農場の開設を進める。
- ・ 生産構造が変化、一定の大規模化が進展。

2 生乳生産の構造

大規模化の進展（1）

- 全体の農家戸数は減少傾向にあるも、100頭以上の戸数は増加傾向
- 100頭以上の大規模経営が全体に占める割合は、0.8%（2013年、1万4700戸）
⇒2007年の7800戸からほぼ倍増、全体に占める割合も年々増加傾向

乳用牛の飼養規模別農家戸数の推移

（単位：千戸）

	全体	1～4頭	5～19頭	20～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1,000頭以上	1戸当たり飼養頭数
2007年	2,668.7	2,159.7	444.9	56.3	4.4	2.3	0.8	0.3	5.6頭
					7.8				
2008年	2,587.1	1,970.8	542.1	65.6	4.4	2.7	1.0	0.5	5.9頭
					8.6				
2009年	2,402.5	1,816.4	512.8	63.2	4.3	3.3	1.8	0.7	6.6頭
					10.1				
2010年	2,310.2	1,750.9	483.9	64.2	4.6	3.6	2.1	0.9	7.1頭
					11.2				
2011年	2,198.5	1,651.8	458.0	76.7	5.3	3.6	2.1	1.0	7.9頭
					12.0				
2012年	2,055.8	1,562.5	406.2	73.6	6.0	3.8	2.3	1.3	7.3頭
					13.4				
2013年	1,890.6	1,425.6	386.8	63.6	7.0	3.9	2.4	1.4	7.7頭
					14.7				

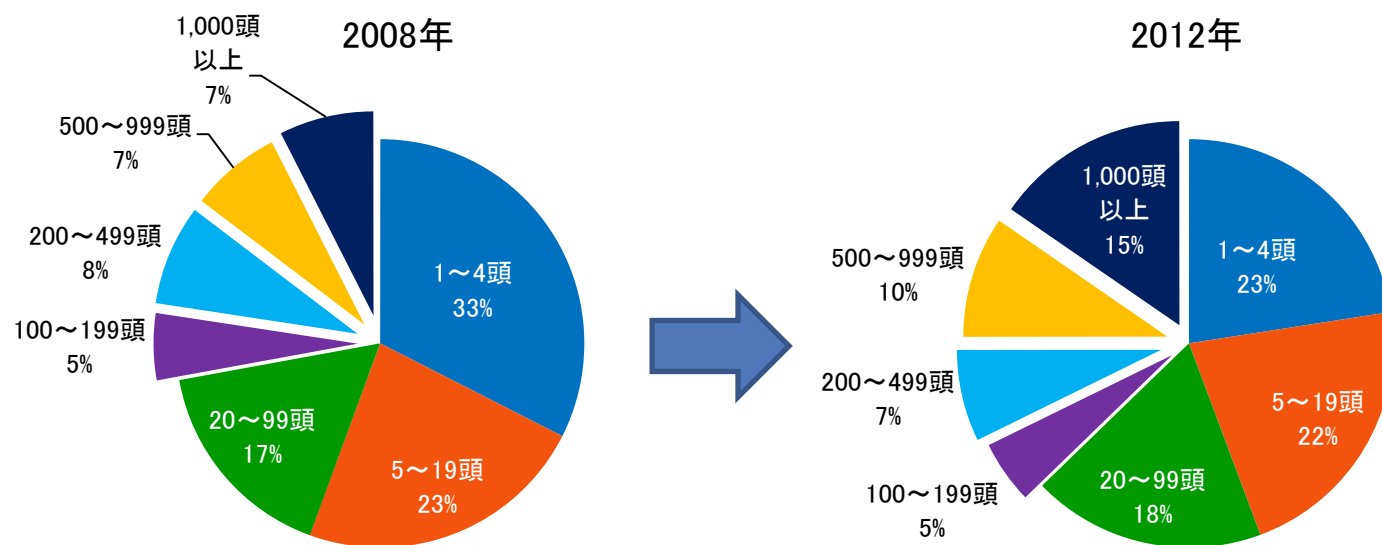
資料：中国畜牧業年鑑

2 生乳生産の構造

大規模化の進展（2）

- 100頭以上の大規模経営が、飼養頭数に占める割合は37%（2012年）
⇒2008年の27%から10ポイント増加
⇒戸数ベースに占める割合は小さいものの、頭数ベースで4割弱を占める

乳用牛の飼養頭数規模別割合（頭数ベース）



資料：中国畜牧業年鑑

2 生乳生産の構造

大規模化の進展（3）

- 国内乳業大手の蒙牛乳業や伊利実業集団は、近年、生産部門へ投資
⇒直営農場の開設や契約農場からの生乳調達を進める
- 内蒙古自治区や黒龍江省などの主産地では、地方政府が海外からの乳用牛の導入を支援

蒙牛乳業の澳亜国際牧場（内蒙古自治区）



牛舎内の様子

伊利実業の金川牧場（内蒙古自治区）



ロータリーパーラー

2 生乳生産の構造

大規模化の進展（4）

- 北京や上海、天津など大都市郊外でも産乳能力の高い乳牛を導入し、大規模に展開している経営も見られる。

北京三元食品の契約農場（北京市郊外）



農場外観



牛舎内の様子

資料：乳業資料網（<http://ryzxw.com/Gallery/content/>）より引用

2 生乳生産の構造

大規模化の進展（5）

上海乳牛集団香花鮮乳有限公司（上海市郊外）



牛舎内の様子



育成舎内の様子

夢得牧業発展有限公司（天津市郊外）



農場外観



牛舎内の様子

2 生乳生産の構造

外資による経営参入（1）

- 外資（主に合弁）による大規模農場開設も進展
- 豊富な資金力を用いて、NZや豪州からホルスタインを導入し、トウモロコシや輸入アルファルファ主体の飼料を給与
- 搾乳施設などの設備も最新の機器を海外から導入

主な外資系牧場一覧（2013年現在）

牧場名	出資元	搾乳牛飼養頭数	生乳生産量	1頭当たり乳量
フォンテラ唐山牧場	NZ	9,200頭	7万8,000トン	8,500kg
河北三河華夏畜牧	シンガポール	5,000頭	4万4,000トン	1万300kg
山東東営澳亜牧場	シンガポール	1万7,000頭	17万トン	9,700kg
山東朝日緑源	日本	1,000頭	7,000トン	8,000kg
江蘇味全泰州牧場	台湾	—	—	—

資料：荷斯坦雑誌

2 生乳生産の構造

外資による経営参入（2）

- NZフォンテラ社は中国国内で積極的に生乳生産を展開
⇒河北省に続き、山西省、河南省で農場を建設中。
- 中国国内に30カ所の農場（酪農拠点を6拠点、1拠点当たり5農場）を建設予定
- 2018年までに年間生乳生産量100万キロリットルを目指す

中国におけるフォンテラ傘下の牧場一覧（2014年7月現在）

牧場名	河北省唐山市					山西省応県		
	第1牧場	第2牧場	第3牧場	第4牧場	第5牧場	第1牧場	第2牧場	第3牧場
竣工時期	2007年	2011年11月	2012年末	2014年3月	2014年3月	建設中、2015年8月竣工予定		
所在地	漢沽区	玉田県	玉田県	玉田県	玉田県	杏寨郷	杏寨郷	南河種鎮
敷地面積(ha)	35	42	41	40	40	92	82	42
乳用牛飼養頭数(頭)	3,000	3,000	3,200	3,000	3,000	10,500	10,500	6,500
生乳生産量(万リットル/年)	2,500	2,500	2,800	3,000	3,000	7,250	7,250	4,500

資料：聞き取りなどを基にALIC作成

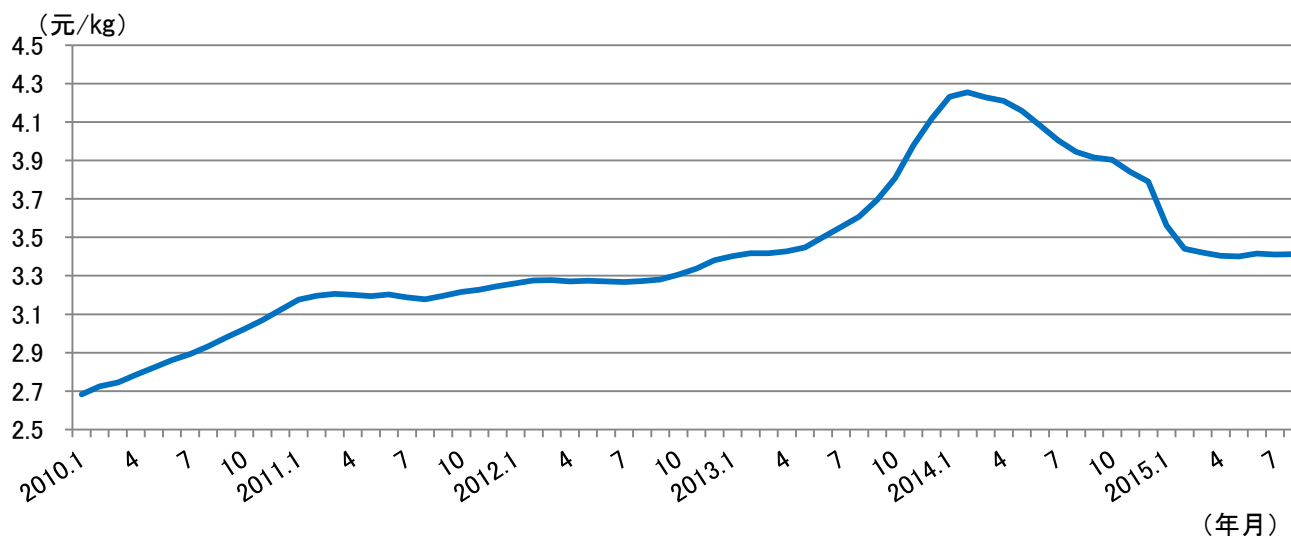
このほか、米Abbott社と共同出資し、河南省に5農場（計1万6000頭以上）を建設予定
⇒2017年以降、順次搾乳開始

2 生乳生産の構造

乳価の動き

- 生乳は自由取引(乳価は各省・自治区ごとに異なる)
- 2014年1月以降、乳価は下落基調。2015年8月は1kg当たり3.4元(65円)
⇒輸入粉乳の使用割合を増やしたことから、乳業メーカーは国産生乳を買い叩き

生乳の農場出荷価格(乳価)の推移



資料：中国農業部畜産局よりALIC作成

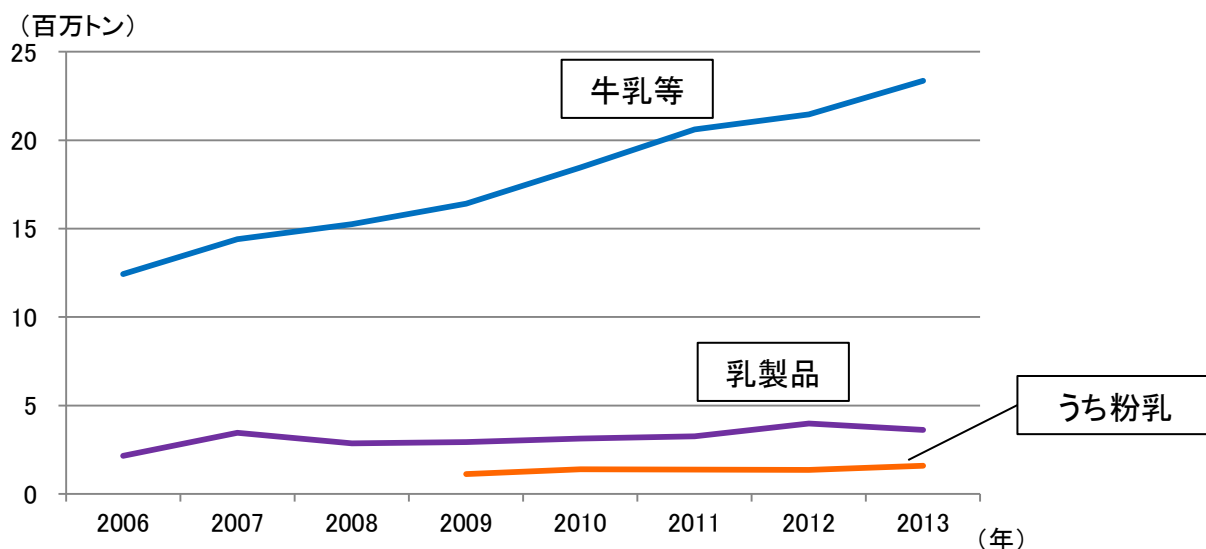
注：統計の集計対象範囲は河北、山西、内モンゴル、遼寧、黒竜江、山東、河南、陝西、寧夏、新疆の10省で、全国の生乳生産量の8割強を占める。

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

生産動向

- 牛乳・乳製品の中でも生産が順調に伸びているのが、牛乳等（2013年の生産量は2336万トン（前年比8.8%増））
⇒輸入粉乳を利用した還元乳も含まれるため、牛乳の生産量は増加
- 2013年の乳製品生産量は362万1000トン（同9.2%減）、このうち約半数が粉乳類

牛乳・乳製品生産量の推移



資料：中国乳業年鑑

注1：牛乳等には、はっ酵乳を含む。

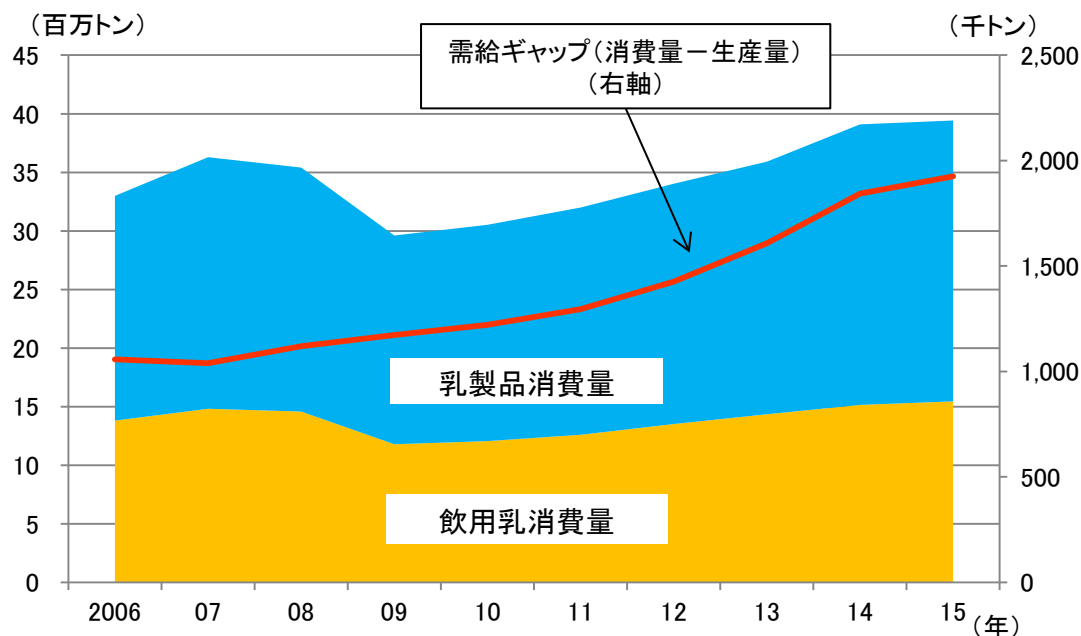
注2：粉乳生産量の統計は2009年から開始

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

消費動向

- 2008年のメラミン事件直後は全体の消費量は落ち込むも、所得の向上や人口増加などにより近年は増加傾向
- 消費量の増加によって需給ギャップは拡大傾向
⇒原料乳(粉乳)の輸入増加につながる

牛乳・乳製品消費量の推移



資料：USDA/FAS「PSD Online」

注1：生乳換算

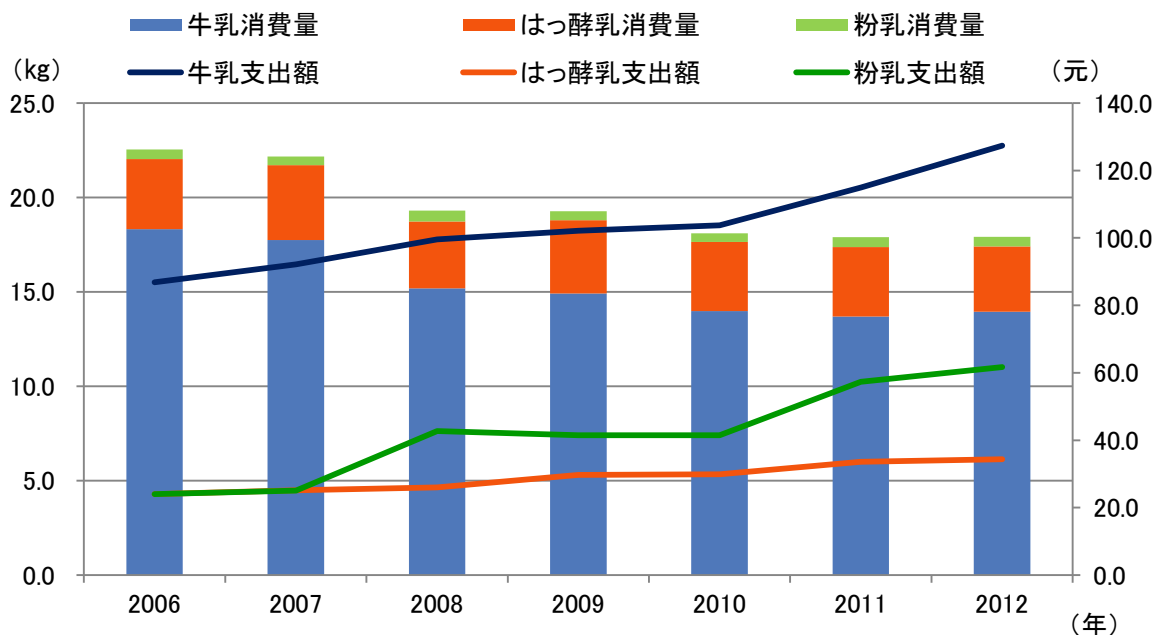
注2：2015年は予測値

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

都市部の消費動向（1）

- 2012年の1人当たり消費量は、牛乳が14kg、はっ酵乳が3.5kg、粉乳が0.5kg
⇒2008年のメラミン事件以降、牛乳・乳製品の消費量は減少
- 支出額はいずれの品目も増加傾向
⇒消費者が安全性、品質を重視し、単価の高い製品を選択

都市部の1人当たり牛乳・乳製品家計消費量および支出額の推移



資料：中国乳業年鑑

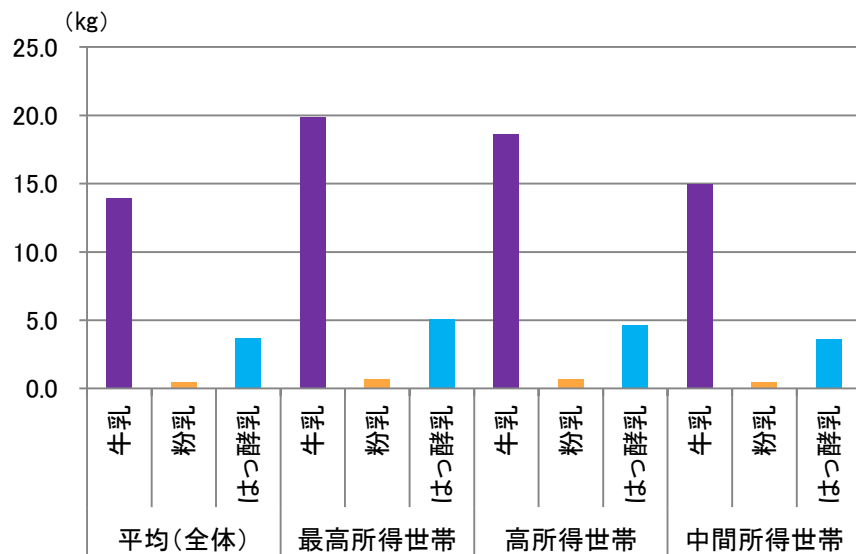
注：家庭における購入量と支出額

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

都市部の消費動向（2）

- 都市部における牛乳・乳製品の消費の主体は、中間所得層以上
⇒所得が高いほど、牛乳・乳製品の1人当たり消費は増加する傾向
- 上位中間層以上（年収1万6,000ドル以上）は、2022年には過半数となる見込み

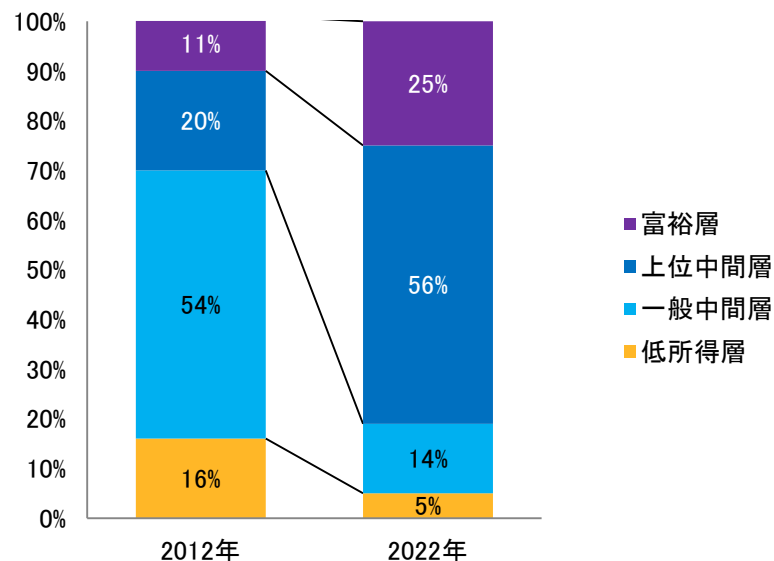
所得階層別都市部の1人当たり牛乳・乳製品
家計消費量（2012年）



資料：中国乳業年鑑

注：注：所得階層は所得の上位10%を最高所得、以下順に高所得（10%）、中間より高所得（20%）、中間（20%）、中間より低所得（20%）、低所得（10%）、最低所得（10%）と分類。本図では、最高所得、高所得、中間所得の部分抜粋。

都市部の収入別階層のシェア



資料：McKinsey Quarterly 「Mapping China's middle class」

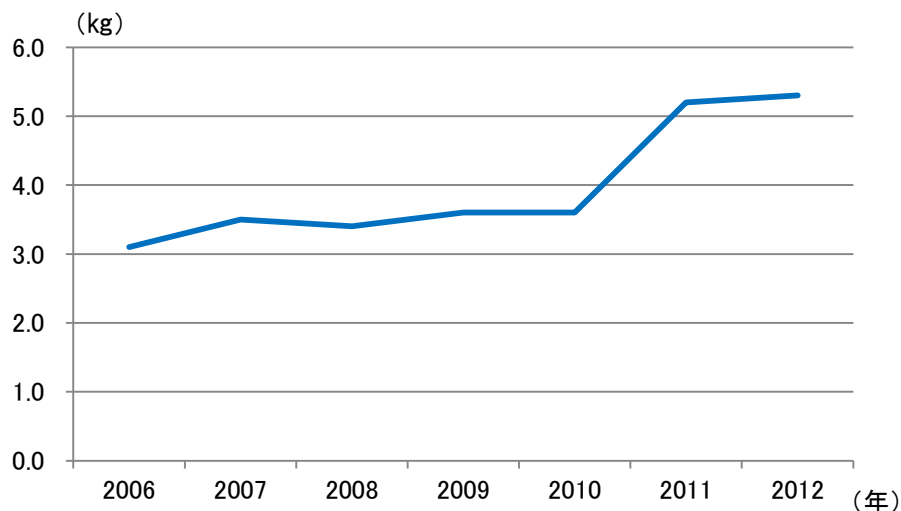
注：富裕層を年収34,000ドル以上、上位中間層16,000～34,000ドル、一般中間層9,000～16,000ドル、低所得層9,000ドル以下と定義

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

農村部の消費動向

- 2012年の農村部の牛乳・乳製品1人当たり消費量は、都市部の約3割の5.3kg（前年比1.9%増）
- 農村部では乳飲料など安価な乳製品の売れ行きが好調

農村部における1人当たり牛乳・乳製品消費量の推移



資料：中国乳業年鑑



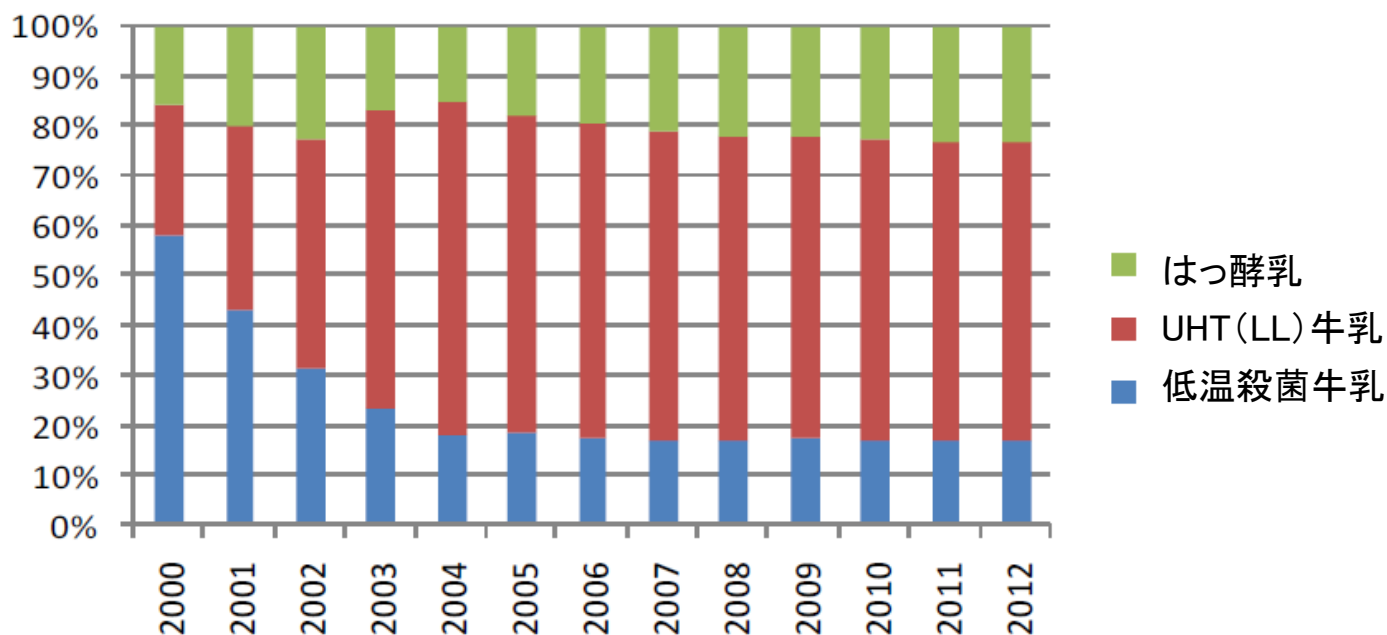
果実風味の乳飲料

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

飲用乳（1）

- 中国全体では、UHT(LL)牛乳の消費が主流
⇒UHT(LL)牛乳と低温殺菌牛乳の生産比率は、8:2程度
- 近年、国内の乳業メーカーは、低温殺菌牛乳の生産に注力

牛乳等の種類別生産割合の推移



資料：中国乳業協会

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

飲用乳（2）

- 都市部のスーパーにおける牛乳やはち酩乳の価格は、日本よりも割高
⇒乳業メーカー側は中間層以上をターゲットに商品開発

牛乳・乳製品の小売価格の一例（北京市内スーパー）

（単位：元）

	内容量	価格	
			円換算
国産ビニール袋入り牛乳	180ml	2.0～2.5	38～48
国産紙パック入りLL牛乳（贈答用）	250ml	6～8	115～153
国産紙パック入り牛乳	1000ml	15～21	286～400
海外産紙パック入りLL牛乳	1000ml	25～30	477～572
国産ペットボトル入り乳酸菌飲料	950ml	10～12	190～229
国産ペットボトル入り乳飲料	500ml	3.5～4.5	67～86
ドリンクタイプヨーグルト（国内ブランド）	450ml	13～16	248～305
カップタイプヨーグルト（国内ブランド）	100g	2.0～5.3	39～103
カップタイプヨーグルト（海外ブランド）	110g	2.5～3.0	49～59

資料：ALIC調べ

注：2014年11月現在



ビニール袋入り牛乳



海外ブランドの各種カップタイプヨーグルト



機能性を謳ったカップタイプヨーグルト

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

飲用乳（3）

- 北京や上海など都市部の消費者は、購入する際に鮮度を重視
⇒UHT(LL)牛乳から低温殺菌牛乳へ嗜好がシフト
- 製造日から数カ月経過したUHT(LL)牛乳は、海外産でも売れ残る傾向に



三元食品の低温殺菌牛乳。
パッケージには「鮮牛乳」と表示（北京市内）



光明乳業の低温殺菌牛乳（上海市内）



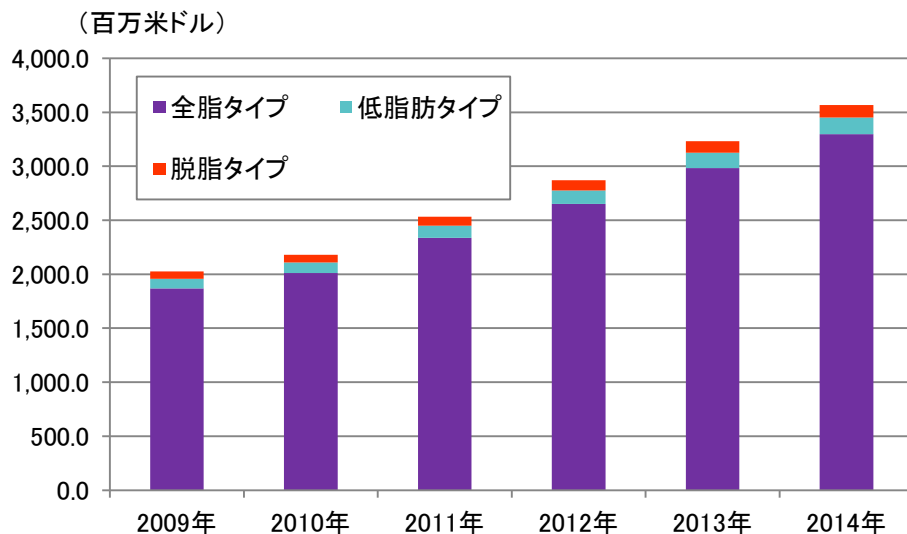
値引き販売される輸入UHT(LL)牛乳
パッケージには「純牛乳」と表示（上海市内）

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

飲用乳（4）

- コーヒー文化の浸透、外資系カフェチェーン店の進出に伴い、牛乳消費も拡大
- 2014年の1人当たり消費量は5杯、都市部でも20～30杯と少ないため、さらなる市場拡大の可能性

フレッシュミルクの小売市場規模の推移



資料：Euromonitor International

スターバックス

1999年：1号店
2014年：約1400店
(10万人当たり0.10店舗)

※ 日本(1996年：1号店)
2014年：1096店
(10万人当たり0.81店舗)



(1杯27元＝約515円)

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

育児用粉乳（1）

- 母乳育児率の低下、乳業メーカーによるPR効果等によって、育児用粉乳の消費量は増加傾向
- 2013年の市場規模は70万トン（2010年は50万トン）と拡大傾向

母乳育児率の推移

	1998年	2005年	2014年
母乳育児率	67.0%	49.0%	27.8%

資料：国家衛生計画生育委員会
注：生後0～6カ月の乳児が対象



国家衛生計画生育委員会の広報資料。
中国は世界の育粉消費量の約3割を占めるとあり、母乳育児の必要性を訴えている。



国内ブランドの育児用粉乳

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

育児用粉乳（2）

1979年に導入された一人っ子政策により、人口増加率は徐々に低下



2004年以降、両親が一人っ子の場合、
2人目を産んでよいなど条件緩和の動き



新生児は毎年1600万人誕生、条件緩和
でさらに200万人の増加が見込まれる



育児用粉乳市場のさらなる拡大へ

急速に高齢化が進行

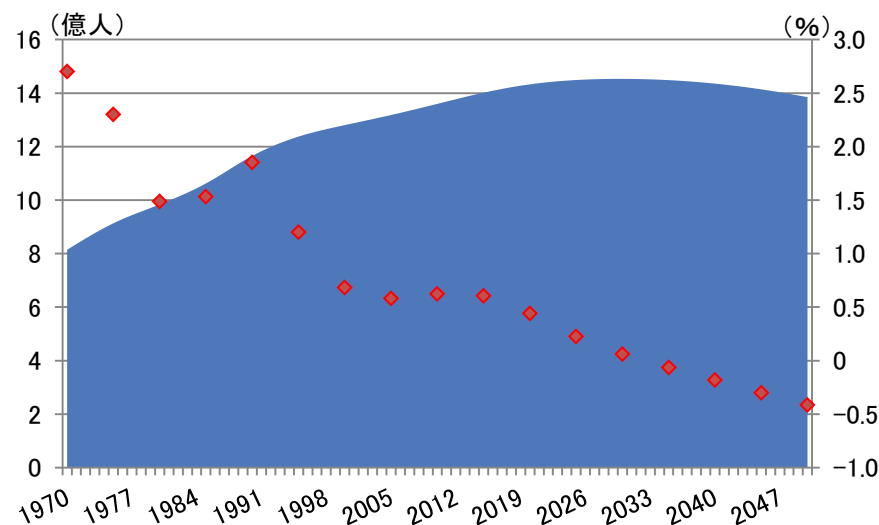


成人用粉乳にも商機



成人用粉乳

人口と人口増加率の推移と見通し



資料：国連統計部

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

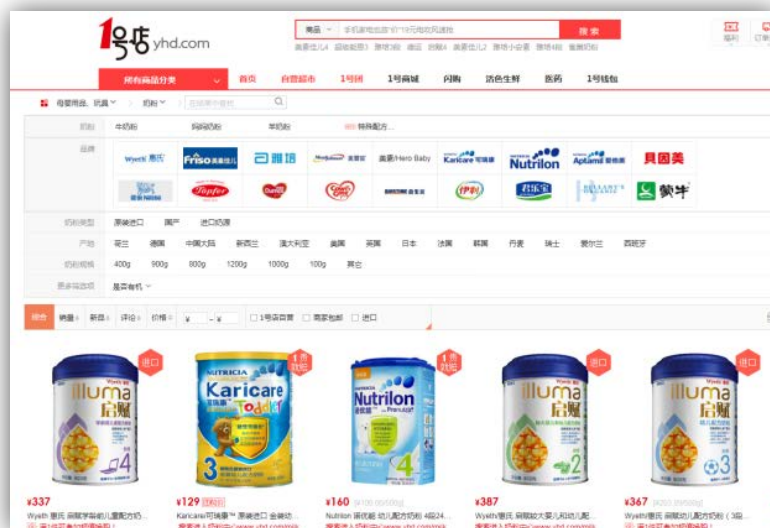
育児用粉乳（3）

- 近年、育児用粉乳市場は様々な海外ブランドが流入し競争が激化
- 市場の上位は外資系メーカーが占有

インターネット販売における育児用粉乳の販売量シェア（2014年6月）

NO.	メーカー (中国名)	メーカー (英名)	本社所在地	販売量シェア	平均小売価格 (元/900g)
1	惠氏	Wyeth	米国	18.9%	240
2	雅培	Abbott	米国	13.6%	225
3	美素佳儿	Friso	オランダ	12.9%	565
4	雀巢	Nestle	スイス	10.7%	195
5	美贊臣	Mead Johnson	米国	8.5%	219
6	諾優能	Nutrilon	オランダ	6.7%	457
7	貝因美	Beingmate	中国	5.7%	374
8	可瑞康	Karicare	NZ	3.7%	585
9	飛鶴	Feihe	中国	3.6%	165
10	雅士利	Yashili	中国	2.4%	206
11	その他			13.3%	-
合計				100.0%	-

資料：中国孕婴童産業研究中心



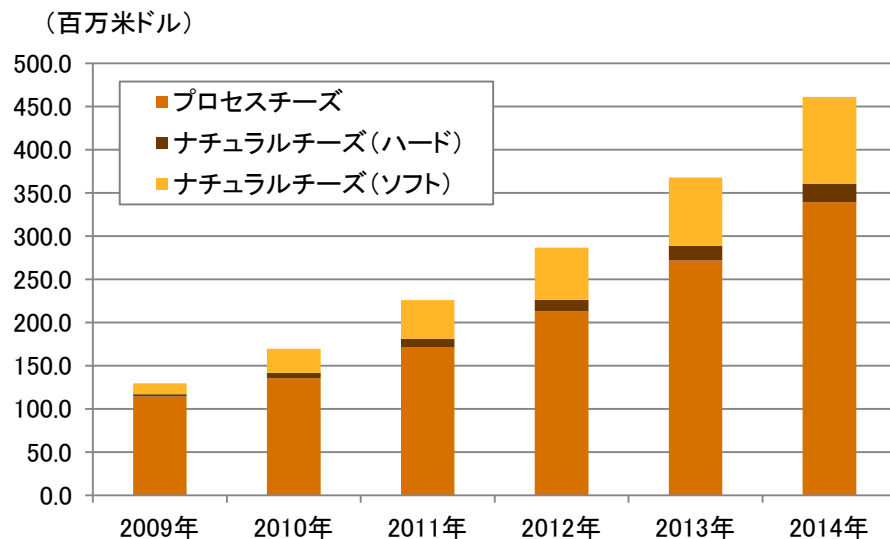
ネットスーパー「1号店」の育児用粉乳ページ

3 牛乳・乳製品の生産・消費動向

外食産業による消費牽引

- ファストフードなどの外食産業の拡大に伴い、チーズ消費が拡大
- 地方都市への進出・展開に伴い、チーズ消費のさらなる伸び
⇒地方都市の中間所得層の増加が、今後の乳製品消費増加の大きなカギ

チーズの小売市場規模の推移



資料 : Euromonitor International

マクドナルド

1990年:1号店
2014年:約2000店
(10万人当たり0.15店舗)

※ 日本(1971年:1号店)
2014年:3093店
(10万人当たり2.52店舗)



(1個9元=約172円)

ピザハット

1990年:1号店
2014年:約1400店
(10万人当たり0.10店舗)



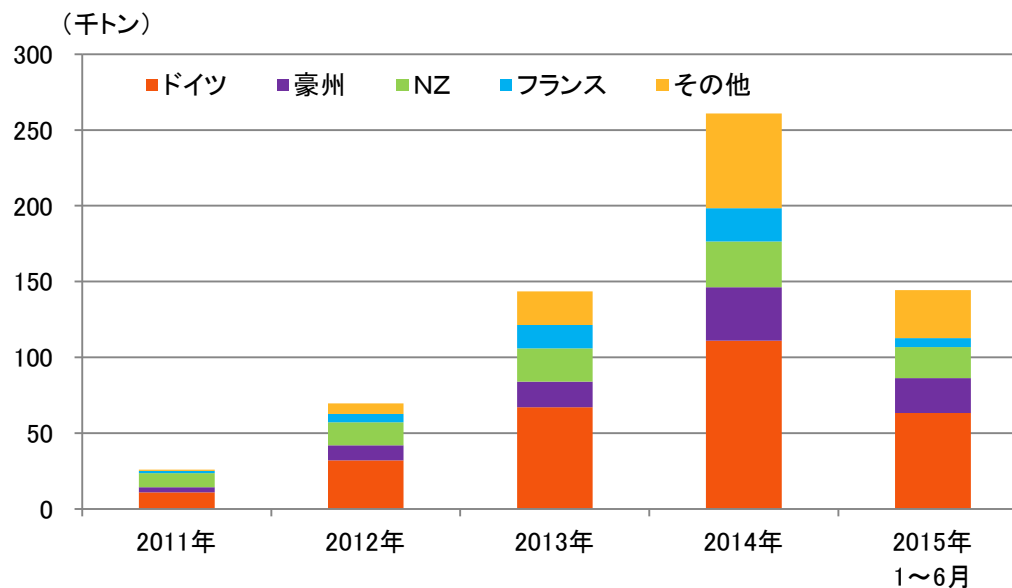
(1枚39元=約745円)

4 牛乳・乳製品の輸入動向

牛乳の輸入動向

- 2014年のUHT(LL)牛乳の輸入量は、26万トン(前年比81.7%増)
⇒輸入量は毎年、ほぼ倍増
- 主な輸入先はEU諸国、2014年からは豪州からの輸入が増加
- 牛乳の国内生産量は2336万トン(2013年)であるため、輸入量はその1%程度

UHT (LL) 牛乳の輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード040120 (LL牛乳)

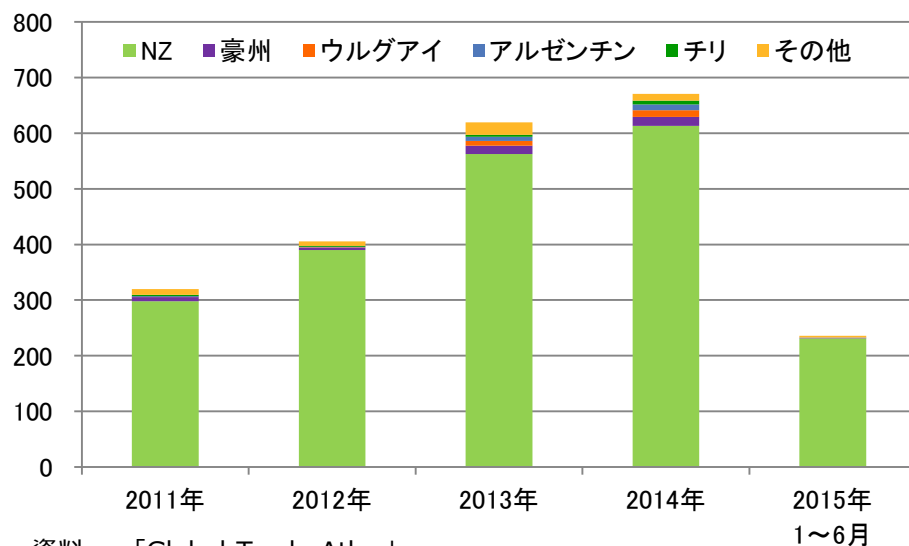
4 牛乳・乳製品の輸入動向

粉乳の輸入動向（1）

- 2014年の全粉乳の輸入量は67万1000トン（前年比8.4%増）、脱脂粉乳は25万3000トン（同7.7%）
⇒2014年下半期に、一定の在庫水準に達したこと等により輸入需要に一服感
- いずれも最大の輸入先は、自由貿易協定（FTA）を締結しているNZ。近年、全粉については輸入先の多角化を図りつつあり、南米からも輸入

全粉乳の輸入量の推移

（千トン）

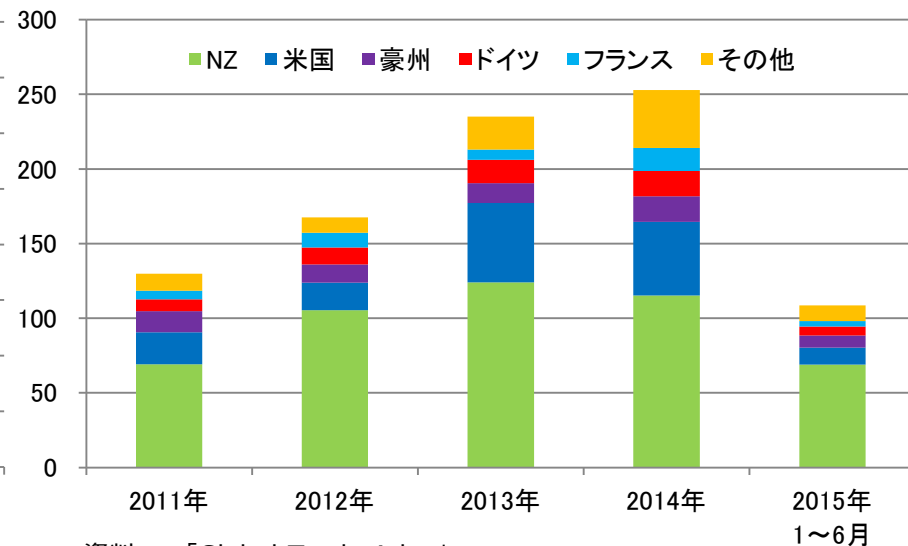


資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード040221、040229（全粉乳）

脱脂粉乳の輸入量の推移

（千トン）



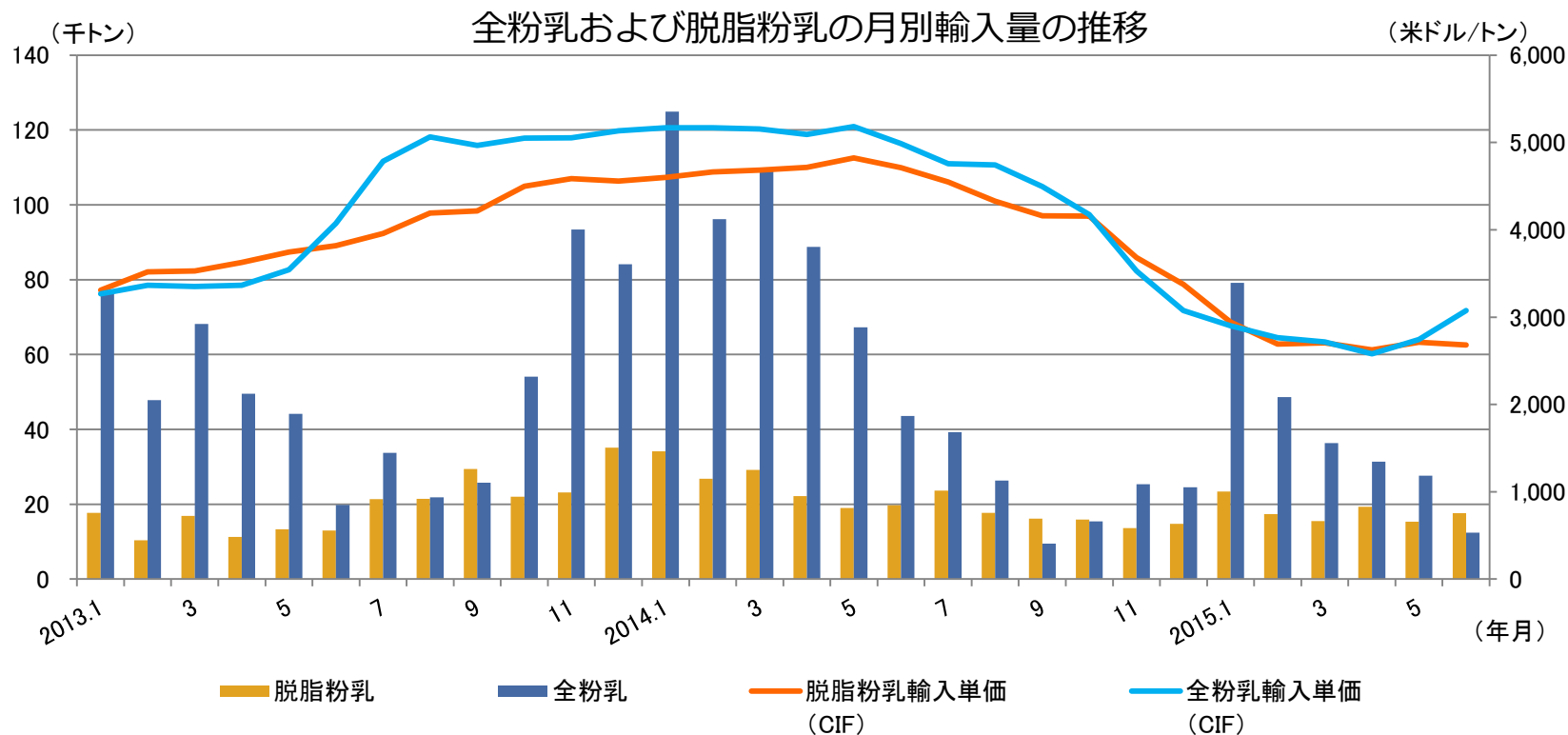
資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード040210（脱脂粉乳）

4 牛乳・乳製品の輸入動向

粉乳の輸入動向（2）

- 月別では1月に輸入が急増
⇒NZとのFTAの関係でセーフガード(SG)発動前に輸入が集中
(2015年の協定税率は3.3%、SG発動後は10%)
- 第3四半期(7~9月)は、国内生乳生産の最盛期に当たるため、輸入量は減少



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード040221、040229（全粉乳）、040210（脱脂粉乳）

4 牛乳・乳製品の輸入動向

輸入粉乳の主な用途

- 2008年のメラミン事件以降、消費者の国産に対する不信感が高まる
- 国内の乳業メーカーは、原料に海外産粉乳を使用
⇒牛乳・乳製品の需要縮小に歯止めをかける
- その後も、安価で高タンパクな海外産粉乳の需要が定着

全粉乳の主な用途

- 還元乳などの飲用向け
- はっ酵乳
- 育児用粉乳
- アイスクリーム
- ケーキ 等



脱脂粉乳の主な用途

- 育児用粉乳
- ミルクティー、コーヒー
- 製菓 等

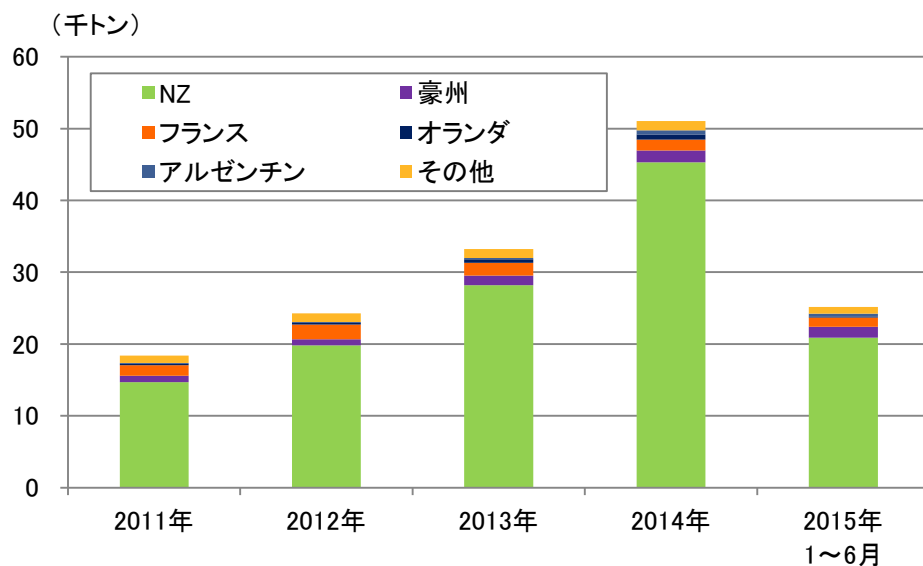


4 牛乳・乳製品の輸入動向

バター・チーズの輸入動向

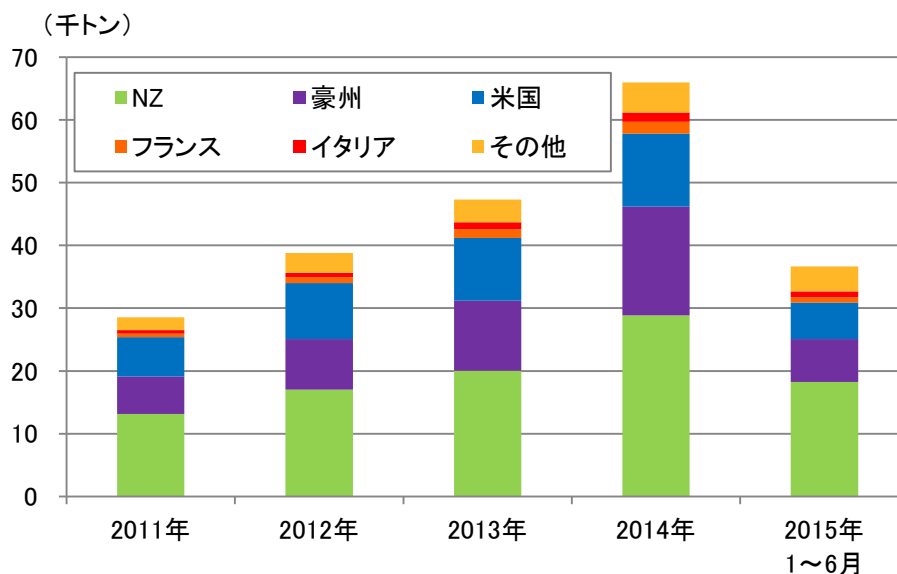
- 2014年のバターの輸入量は5万1000トン(前年比54.5%増)
 - 2014年のチーズの輸入量は6万6000トン(同40.4%増)
- ⇒いずれも毎年、堅調に増加

バターの輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード040510（バター）

チーズの輸入量の推移



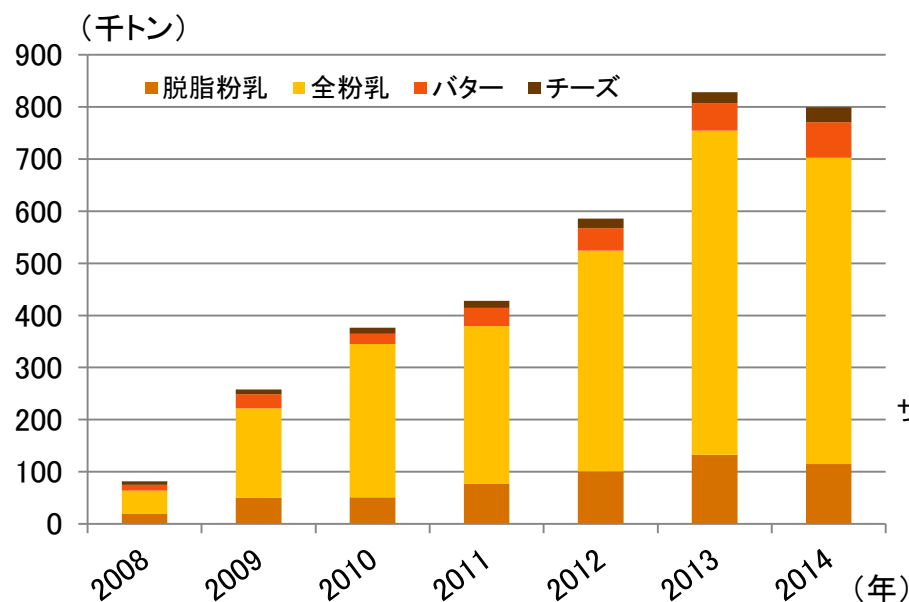
資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード0406（チーズ）

4 牛乳・乳製品の輸入動向

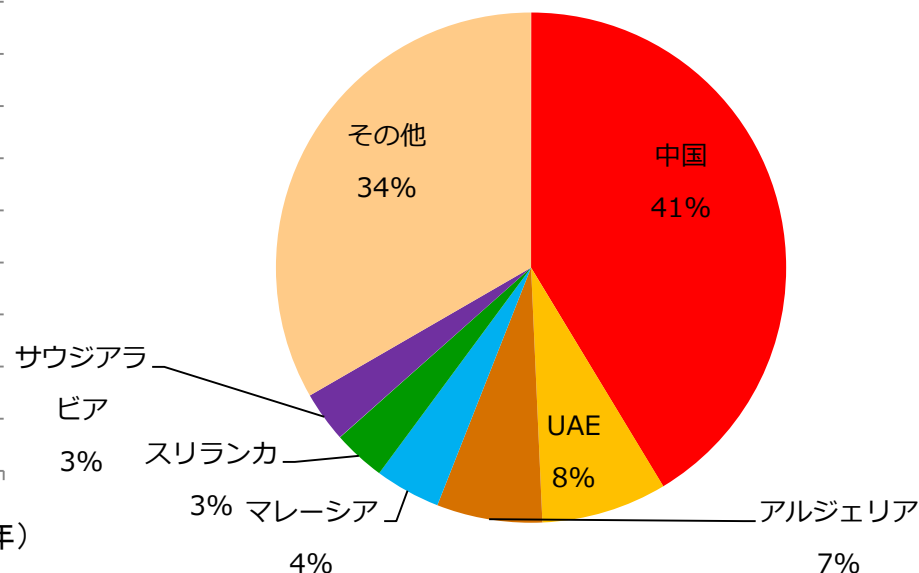
NZの対中輸出動向

- 2008年の中国とのFTA締結後、NZの乳製品輸出は急速に増加。同協定では関税が段階的に削減され、2019年に全廃
- NZの全粉乳輸出の4割は中国向け
- 輸出先を中国一辺倒から多角化する動きも

NZの主な乳製品の対中輸出量の推移



NZの全粉乳国別輸出割合 (2014年)



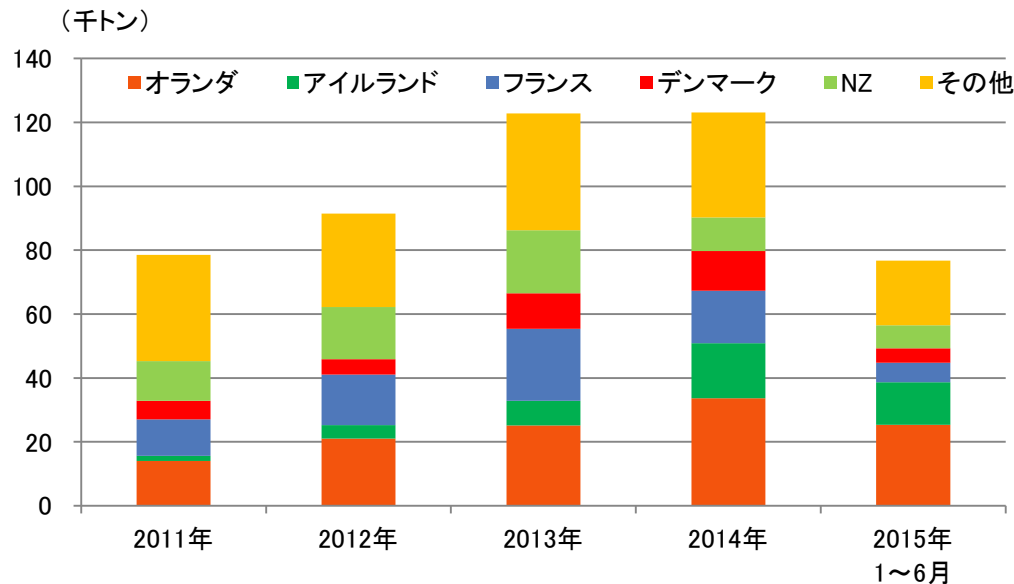
資料 : Statistics NZ

4 牛乳・乳製品の輸入動向

育児用粉乳の輸入動向（1）

- 2014年の育児用調製品（9割以上が育粉）の輸入量は12万3000トン
⇒毎年、堅調に増加するも、2014年は管理強化の影響で前年並みに
- 主な輸入先はEU諸国、これらの国は2008年のメラミン事件以降急増
⇒近年、ダノン、Wyeth、Abbottなどはアイルランドでの生産に注力

育児用調製品の輸入量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード190110（育児用調製品）

4 牛乳・乳製品の輸入動向

育児用粉乳の輸入動向（2）

- 中国政府は、「輸入育児用粉乳の管理強化に関する公告」を発出
⇒輸入育粉の安全性の確保が目的
⇒メラミン事件以降、急増した大小様々な海外ブランドを整理する狙いも

輸入育児用粉乳の管理強化に関する公告

- 大型包装による輸入を禁止し、小売向けの最小単位の包装を義務付け
⇒中国国内での詰め替えによる偽装を防ぐ
- 2014年4月から、海外産育児用粉乳が中国に輸入される際には、中国語ラベルの印字を義務化（国内での付け替え禁止）。



- 2014年5月から海外乳製品メーカーに対する登録管理制度の実施
- 登録リストは国家認証認可監督管理委員会（CNCA）のHPで随時確認可能
<http://www.cnca.gov.cn/ywzl/gjgnhz/jkzl/>

CNCA 进口食品境外生产企业注册专栏				
首页	通知公告	法律法规	文件下载	联系我们
进口乳品境外生产企业注册名单				
婴幼儿配方乳品				
欧洲	美国	澳洲	新西兰	其他
奥地利 (2014年06月25日)	比利时 (2015年03月20日)	丹麦 (2014年04月30日)	挪威 (2014年07月31日)	
法国 (2014年06月23日)	德国 (2014年11月15日)	爱尔兰 (2014年09月11日)	意大利 (2014年12月22日)	
荷兰 (2014年05月27日)	瑞士 (2014年04月30日)	瑞士 (2014年11月19日)	西班牙 (2014年05月21日)	
英国				
美国 (2014年11月02日)	阿根廷 (2014年12月22日)			
大洋洲				
澳大利亚 (2014年12月22日)	新西兰 (2014年12月22日)			
亚洲				

5 今後の見通し

中豪FTAによる影響

- 中豪FTAは2015年6月に署名
⇔現時点では、未発効
- 豪州酪農業界は、協定内容を評価するとともに、対中輸出拡大に期待

中豪FTAの主なポイント

- 乳製品については、最大11年かけて関税を撤廃
- セーフガードが設けられるのは全粉乳のみ
⇒ NZとのFTAでは、液状乳やチーズ、バター、粉乳類についてそれぞれセーフガード措置



- 豪州から、UHT(LL)牛乳、チーズ、育児用粉乳などの輸入量の増加見込み
- 中国乳業メーカーによる豪州進出も増加する見込み

5 今後の見通し

主な国内乳業メーカーの動向

光明乳業



- 2010年9月、中国の乳業メーカーによる初の海外企業の買収となる、NZの粉乳メーカーSynlait社を買収 ⇒ 現地生産した育児用粉乳は全量中国へ輸出

伊利実業集団



- 2014年6月にNZ南島カンタベリーで、育児用粉乳工場を稼働（年間生産量4万7000トン）、このほかUHT(LL)牛乳の生産も開始予定

雅士利（現蒙牛乳業）



- 2014年6月にNZ北島ワイカトで、粉乳工場を稼働（年間生産量5万2000トン）

貝因美



- 2014年8月にNZフォンテラと資本提携。今後、豪州に合併会社を設立し、粉乳生産を行う予定

6 まとめ

生乳生産

- 国内では、飼料価格、人件費、地代などの高騰で、生産費は上昇傾向。一方、現在の乳製品の国際価格は低水準
⇒ 零細農家が淘汰され、大規模化が進むなど構造変化が見られる。
- 国内の乳業メーカーは、安価な乳原料を求めて海外に進出、海外での粉乳工場の建設や、外資系企業との提携を推進

消費動向

- 所得の向上、人口増加により、牛乳・乳製品の消費は増加傾向。
⇒ 生乳の需給ギャップは年々拡大傾向
- 低温殺菌牛乳の内需は堅調に増加。消費は常温保存のUHT(LL)牛乳から要冷蔵の低温殺菌牛乳等へシフトしつつある。
- 各乳業メーカーが乳製品の中でも特に高い潜在性を見込むのは、育児用粉乳

輸入動向

- 粉乳を中心とした乳製品の輸入量は増加傾向。
ただし、2014年は必要以上に粉乳類を確保する業者が続出、在庫過多の状況

ご清聴ありがとうございました

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。



情報誌【畜産の情報】

<http://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/index2.htm>